オーバーツーリズム対策とインバウンド・ビジネスの両立

団体名●土屋ゼミナール／代表者名●土屋仁美（経済学部経済学科・准教授）

はじめに(背景・目的・目標)

現代社会の企業活動には、営利の追求だけではなく、社会的な問題を解決するための行動が期待されている。そこで、2024年度の基礎専門ゼミナールⅠ・Ⅱでは、共創インターンシップを通じて、現代社会が抱える課題としてオーバーツーリズム対策とインバウンド・ビジネスの両立をテーマに、企業が対応する意義について理解を深めるとともに、企業活動を通じた社会課題解決の取組について実践的に学ぶことを目的とした。

活動内容

企業活動は、人事、調達、製品開発、マーケティング等あらゆる事業・業務に利害関係者が存在し、あらゆる場面で影響を与える。企業活動による社会への影響は広範囲に及び、社会問題の解決にも貢献し得る。また、社会問題の解決により、当該企業のブランド化に寄与することも可能である。

2024年度の共創インターンシップのマッチング企業である株式会社エクスペリションズは、「地域と世界をつなぎ、社会の国際的な発展に貢献する」という起業理念のもと、①翻訳・通訳、②宿泊施設の運営、③インバウンド向けツアーを行っている。また、3つの事業を合わせて独自性を出し、地域のインバウンド・ビジネスの発展に寄与することを目指している。

そこで、株式会社エクスペリションズとの活動を通じてビジネスチャンスとともに、オーバーツーリズム対策を加味した取組の必要性について理解を深めた。①経営理念に合致すること、②企業活動に+ a をすること、③持続性を重視すること、④長期的な視野で総合的に考えることに留意し、近江町市場におけるインタビュー及び実地調査を踏まえて、より実践的な取組の提案を目指した。

顔合わせを2024年10月10日(木)に実施し、企業の課題を把握したうえで、オーバーツーリズムについて事前調査を行った。また、同年10月26日(土)には、近江町市場において実地調査とともに、着物レンタルあかりの吉村浩史代表取締役にインタビュー調

査を行い、近江町市場の現状や課題について知識を深めた。中間報告・セッション(2024年11月28日(木))では、企業との議論のなかで、実現可能性等の観点から、提案内容の改善に取り組んだ。

2024年12月19日(木)の個別報告会では、大きく2つの観点から企業に対して提案を行った。(1)食の経験による金沢の魅力発信と(2)オーバーツーリズム対策を加味した近江町市場の観光拠点化である。

(1)食の経験による金沢の魅力発信については、従来の活動の「+ a 」の要素として①近江町市場探索、②職人技の体験、③食べ比べを提案した。また、(2)オーバーツーリズム対策として、①各種おすすめルートの作成、②観光客用のWebサイトの改善、③QRコードを用いたスタンプラリーによる観光拠点化を提案した。

成果、結果の考察

共創インターンシップの活動後(2024年12月19日)に、学生21名を対象に、当該活動の学修効果について、「1とても良い」「2まあまあよい」「3良くも悪くもない」「4やや悪い」「5とても悪い」の5段階評価でアンケートを行ったところ、「1とても良い」が16名と最も多く、次に「2まあまあ良い」が3名となった。また、「印象に残っている」もしくは「効果的だった」活動として、多くの学生が、グループ活動(16名)とともに、「近江町市場におけるインタビュー及び実地調査」(15名)、「中間セッション(企業との議論)」(15名)を挙げた。また、具体的な学修効果として、課題探求能力の向上や多角的視野に基づく課題解決の重要性、試行錯誤の必要性を挙げた学生が多く、企業との対話を通じて、当該インターンシップだけではなく、企業活動全般に対する実際的・具体的な興味・関心につながったことがうかがえる。

今後の課題、展望

今後も、学生が主体的に企業とともに社会課題の解決策を実践的に学ぶ機会として、当該活動の継続が望まれる。